

原発 ゼロ にむかって

2012年11月7日 No.38

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel : 03-5978-2741 fax : 03-5978-2865 mail : sien@tokyominiren.gr.jp

東京保健会／職員旅行
10月28日～29日@福島

『せめて私たちは思考停止をやめよう』

数年ぶりに企画された職員旅行は福島コースが2つ設けられ、私は10月28日発1泊2日コースに参加した。

2日目は、いわきICより浜通り医療生協の伊東理事長もバスに同乗していただき、震災直後のお話や、その後の市町村の動向、住民のみなさんの現状について車窓からの景色の移り変わりに合わせ説明していただいた。楢葉町では伊東理事長と福島第二原発の建設反対運動に携わった住職・早川篤雄さんの宝鏡寺で「福島第一原発事故から1年半～明らかになったことと今後の課題」について、今度は車座でお話しをしていただいた。福島現状を多くの方に語って欲しいと言われた。

セイタカアワダチソウの群生は里山の風景を一変させていた。本来なら、刈り入れを終えた乾いた土が広がる田んぼにススキの穂ほどの高さにまで黄色の花を押し上げ、はるか彼方まで被いつくし、農家が小さく埋もれて見えた。手つかずの里山は絵本の中の絵の様に美しく現実感のないものとなっ



いた。柿をたわわに実らせることの出来る豊かな土地を、見えるかたち、見えないかたちで崩壊させた。コミュニティが原発距離の同心円で区切られ分断させられ、放射線量で分断させられ、賠償で分断させられ、避難するかしないか、子どもに何を食べさせるのかで家族が分断させられていた。

関東でもホットスポットが出来ていて飛散は思いもよらず大きいのに、中央のマスメディアは原発問題が収束したかのように何も言わない。せめて私たちは思考停止はやめようと思う。『ヒロシマ・ナガサキ・チェルノブイリ』の学びを口先だけで引き継いだ私たちは、沖縄に基地があるのを“その特徴”とし、原発のある町を“その特徴”として許してきた私たちは、『フクシマ』経験を生かし自然エネルギー等にシフトしていく日本に今度こそ変えなくてはならない。(財団法人東京保健会 病体生理研究所 桐山まき)



首相官邸前、国会議事堂周辺、永田町・霞が関一帯の、**超大規模大占拠!**

11.11反原発
1000000人
大占拠

全国からあつまろう!!

主催: 首都圏反原発連合
協力: さようなら原発 1000万人アクション / 脱原発世界会議 / 経産省前デントひろば 原発をなくす全国連絡会 /

撮影: 広河隆一 / DAYS JAPAN

★15:00～19:00 国会周辺並びに周辺省庁での抗議・占拠
首相官邸前/経産省前/文科省前などにも抗議エリアを設けます。
★17:00～19:00 国会正門前大集会